

<参考資料>「グランドデザイン・大阪」(案)〔詳細版〕

1. 「グランドデザイン・大阪」のねらい
2. 「グランドデザイン・大阪」の取り組み
3. 「グランドデザイン・大阪」で描く都市構造
4. エリアデザインの考え方
5. 各エリアでの取り組み
6. 具体的取り組み(例)
7. インフラ活用・整備
8. 実現に向けた工程表(例)
9. 「グランドデザイン・大阪」の推進に向けて
10. 地域ポテンシャルを活かした府域との連携イメージ

1. 「グランドデザイン・大阪」のねらい

■ 「グランドデザイン・大阪」のねらい

◆大都市・大阪の「大きな方向性」を示します

- 国際的な都市間競争に勝ち残るためには、関西・大阪に、創造的な人材が国内外から集まり、都市の活力を生み出す創造的な活動を促進していくことが重要です。
- そのためには、人が住みたくなる、働きたいと思える魅力ある都市環境（器）を用意することが必要であることから、既存ストックである都市インフラや都市拠点について、そのポテンシャルを最大限活かしつつ、行政にはない民間の様々な知恵や技術などをフルに活用して、多面的にイノベーションしていくことが求められます。
- このため、「グランドデザイン・大阪」では、「将来ビジョン・大阪」のもと、2050年をめざして、創造的な人材が集積する強い大阪づくりに向けて、大阪の都市構造を大胆に転換していく方向性を示します。

◆多様な価値を創造する都市・大阪の実現

- 世界的にみれば、人口は急増期を迎えており、人口移動も活発化し、メガリージョンと呼ばれる巨大都市圏に人口が集中する傾向にあります。こうした動きを的確にとらえ、大阪においても「将来ビジョン・大阪」のもと、現在の課題を克服するとともにポテンシャルを活かし、多様な価値を創造する都市へと変革をとげていかなければなりません。

◆圧倒的な魅力を備えた“都市空間”の創造

- 多様な価値を創造する大都市・大阪を実現するため、「グランドデザイン・大阪」では、大阪の都市づくりについて、次の大きな理念を掲げます。
 - ◇大阪は、民間の力で大きく動き出している。この機会を活かし、個別開発にとらわれることなく、ストック、ポテンシャルを活用し、圧倒的な魅力があり、住み、働き、楽しみたいと思える大都市・大阪の都市空間をつくります
 - ◇創造的な人材を集め、新しい産業の創造やクリエイティブな活動を生み出す都市をめざします

■ 「グランドデザイン・大阪」の将来像

◆強い大都市・大阪 — 国際競争に打ち勝つ —

～国内外から人々をひき寄せ、広域インフラで都市圏を結合～

- 世界経済の動向にあわせ、さらなる成長で日本を牽引する大都市
- 若者を中心に人々を国内外からひき寄せ、人口の社会増を達成（人口は減らさない）
- 広域インフラにより都市圏を結合し、大阪の市場圏を拡大する。

◆便利で快適な大都市・大阪

～自動車を抑制し、都心部を人に開放する、歩いて楽しい都市～

- 利用者の視点に立った利便性の高い交通システムへの転換
- 「歩いて暮らせるまちづくり」のための都市機能の集約化・混合化
- 新たなエネルギーの創造や省エネルギー化の推進

◆多様な人材が集積する大都市・大阪

～職・住・学など、多様な機能が混在する知的創造を支える都市～

- 知的創造を支えるまちへの転換（居・職・学が近接した都市構造）
- 大学・研究機関をはじめとした知的創造拠点の集積
- 優れた大都市景観など、都市の品格の形成

◆都市魅力あふれる大都市・大阪

～みどりや水辺など圧倒的な都市魅力と品格ある都市景観～

- 働き、学び、遊び、楽しむ機能を最大限発揮する楽しい大都市
- 圧倒的な存在感があり、世界に発信できる名所・名物づくり
- みどりあふれ風を感じる歩行者空間

◆安全・安心な大都市・大阪

～首都機能を代替し得る安全・安心な都市～

- 都市活動の基礎となる安全（災害への備え・犯罪への対処等）の確保
- 首都機能、日本の経済中枢機能を代替し得る防災安全都市化

2. 「ランドデザイン・大阪」の取り組み

■ 仕組みのグレート・リセット

■ 「行政主導」ではなく「民間主導」

◇ 需要（利用）者側の視点からの取り組み

これまでの供給サイド、行政側の都合に合わせた従来型の進め方ではなく、需要者である住民の視点からの取り組みを進めます。

◇ 行政の一律規制の弾力的な見直し

大阪市は、これまで、地域の特性に応じた、一定の用途や建築物の高さ制限等の機能制限や、道路等の公共施設計画を一律に定めていますが、まちのにぎわいを生み出すために、弾力的な見直しを行います。

◇ 象徴的なエリアのデザインは、行政が決めるのではなく、エリアを熟知する民間等を主体に進めていきます

広域的な観点から設定した象徴的なエリアは、デザインをこれまでのように行政が決めていくのではなく、エリアの特性を十分に熟知した民間等が主体となって進めていきます。

■ 「府市バラバラ」の発想からの脱却

◇ インフラは、府市それぞれ、供給主体ごと、バラバラの狭い視点ではなく、強い大阪に向け、広域でトータルに実行します

大阪市内の波及効果の大きなインフラの整備について、これまで、府市それぞれ、供給主体ごとに狭い視点で進められてきています。2050年の強い大阪の実現に向けて、府と市が一体となって、広域的な視点から、トータルにエリアデザインを進めていきます。

■ 「段階的」に実行する都市空間の創造

◇ 民間主導による取り組みの成果を、次の投資に活かす投資が循環する仕組みをつくります

これまでの都市づくりは、行政の費用で進めてきており、採算性に乏しく、回転する仕組みが弱くなっていました。これからのエリアデザインは、民間の費用、収益性を回転させ、その収益を次の投資に活かすことが必要です。短期・中期・長期に分けた到達点を示し、税の減免など、投資が循環する仕組みをつくります。

■ ハードのグレート・リセット

■ みどりを圧倒的に増やす

◇ 通過交通を極力排除し、都心部に圧倒的なみどりを！

2050年に向けて、御堂筋などの大阪都心部を中心に、「車から人に開放する都市構造」をめざします。阪神高速道路や近畿自動車道などで構成する環状道路ネットワークによって都心部の通過交通を迂回処理するとともに、都心部の街路網の交通規制と運用などにより円滑な都市交通体系を確保します。これにより、物流や商用などの自動車が、都心部の道路を走行する交通体系を抜本的に転換し、御堂筋を中心に、みどりに包まれた都市環境を人に開放します。

◇ 圧倒的なみどりを都心部から周辺山系までつなぐ！

大阪は、都市近郊に自然豊かな周辺山系や海辺があるという立地特性を有するものの、都市部ではみどりが少なく、都市景観としてもさらなる魅力向上が望まれます。都市部において府民をひきつける魅力あるみどりの創出を進め、海と山をつなぐ「みどりの風の軸」を府市一体となって形成していきます。

■ 水を綺麗によみがえらせる

◇ 川の水を水都大阪として誇れるレベルに！

下水処理の高度化の推進や、雨の強さが一定の水準を超えた場合に、合流式下水道から放流される雨水で希釈された汚水による水質汚濁への対策（合流式下水道の改善）に加え、上流域の下水道普及率・接続率の向上を図るなど、上下流で連携した取り組みを行い、「水都大阪」として誇れる河川にしていきます。

◇ 水と親しめる空間の創出！

都心を囲む水辺整備などを進めるとともに、身近に水の魅力が感じられる親水空間を整備するなど、水に親しめる空間の創出を図ります。

■ 街並みを美しく生まれ変わらせる

◇ 景観を妨げる電線類を地中化！

地上に張りめぐらされた電線類は、景観を妨げているだけでなく、電柱によって通行の障害となっています。電線類の地中化をさらに推進していくことによって、市街地や住宅の景観を向上させ、安全で快適な通行空間の確保を行います。

◇ 高速道路の撤去・地下化！

高速道路は老朽化が進み、朝夕の交通渋滞による周辺環境の悪化や下部の堀の水質悪化などの問題があります。高速道路を撤去し、地下化することで、地上に開放された空間は、暮らしの憩いの場として利用していきます。

■「ランドデザイン・大阪」による、これまでの都市づくりからの転換

これまでの都市づくり

これまでの仕組み

- 「行政主導」の取り組み
 - ・供給側（行政・デベロッパー）の理論優先
 - ・地域の特性に応じた一定の用途や建築物の高さ制限等の機能制限
 - ・都市のデザインを行政により決定
- 府市バラバラ、供給主体ごとのインフラ整備
 - ・府市バラバラ、供給主体ごとに狭い視点で実行
- 民間投資が回転する仕組みが弱い都市づくり
 - ・民間の収益を次の投資に活かさない仕組み

これまでのハードづくり

- 業務中心の都心機能・都市構造
 - ・都心は平日しか行かない働く場所
 - ・環境対策とセットで進められた自動車交通が中心
- 渋滞対応に追われる道路ネットワーク
 - ・車優先の都市構造、道路構造
- 都心部に少ないみどり、水質汚濁が残る河川
 - ・十分なみどりが確保されていない都心部、十分な水質改善ができていない河川
- 上空に張りめぐらされた電線類、高速道路
 - ・景観上の妨げとなっている、上空に張りめぐらされた電線類、高速道路

これからの都市空間創造

これからの仕組み

- 「民間主導」の取り組み
 - ・需要（利用）者側の視点からの取り組み
 - ・行政の一律規制を弾力的に見直し
 - ・象徴的エリアのデザインは、エリアを熟知する民間等を主体に進める
- 地域単位から「広域の視点」へ転換
 - ・府市バラバラの狭い視点ではなく、広域でトータルに実行
- 「段階的」に実行する都市空間の創造
 - ・民間主導による成果を次の投資に活かす投資が循環する仕組みづくり

これからのハードづくり

- みどりを圧倒的に増やす
 - ・通過交通を極力排除し、都心に圧倒的なみどりを確保
 - ・圧倒的なみどりを都心部から周辺山系までつなぐ
- 水を綺麗によみがえらせる
 - ・川の水を水都大阪として誇れるレベルにする
 - ・水に親しめる空間の創出
- 街並みを美しく変わせる
 - ・景観を妨げる電線類を地中化
 - ・高速道路を撤去し、地下化

3. 「グランドデザイン・大阪」で描く都市構造

■ これまでの大阪の都市構造

- 大阪の都市の成り立ちは、船場地区をはじめとした豊臣時代の区割りといわれています。大阪城を中心とした東西方向の陸上・水上交通が重要視され、その後も、1897年の大阪港の大改築など市街地と湾岸部を結ぶ東西方向を中心とした都市づくりが進みました。
- その後、1963年には名神高速道路が、1964年には東海道新幹線が開通し、国土軸が形成され、それに時期を合わせるように1969年には新御堂筋が開通し、大阪の都市構造は国土軸、都心を結ぶ南北軸が重要となってきました。
- さらに、1994年には関西国際空港が開港し、これに併せて、阪神高速湾岸線が開通するなど、大阪の都市の大きな骨格が形成されました。

■ 「グランドデザイン・大阪」が描く都市構造

◆みどりを中心とした都心部の活性化と効果の波及

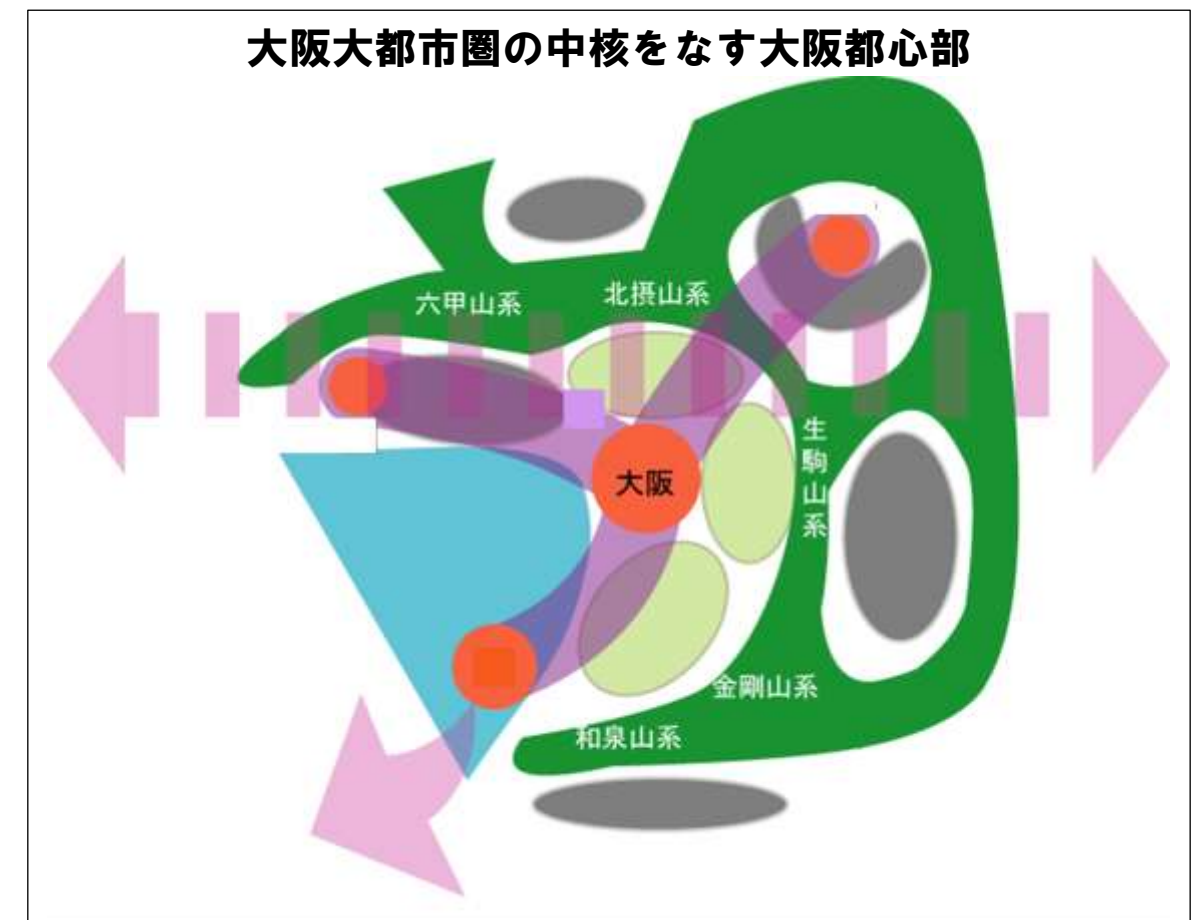
- 都心部を水とみどりあふれる人中心のまちへと変革し、企業活動や暮らしを充実するとともに、みどりの軸を郊外部へと伸ばし、周辺山系へとつなげます。

◆各地域が自立して特色ある資源を活かす連携型の都市構造

- 郊外部に居住し、都心部に通勤するという都心に従属する都市構造から、それぞれの地域が特色あるエリアを形成し、連携する都市構造への転換。
- 都心部では、関西・大阪の活力を支える創造的人材が集積する、高感度な都市環境を創造

■ 「グランドデザイン・大阪」の対象エリア

- ◆これまでの行政区域に捉われず、大都市として一体的に機能しているエリアを設定
- ◆大阪中央環状道路内側のエリアを中心としたエリア=大大阪



4. エリアデザインの考え方

■ エリア設定の考え方

○ 広域的視点に立ったエリア設定

- ・これまでの都市拠点の開発という視点ではなく、大都市圏の広域的な視点から都心部の象徴的エリアを設定

○ 民間や地域のポテンシャルを活用

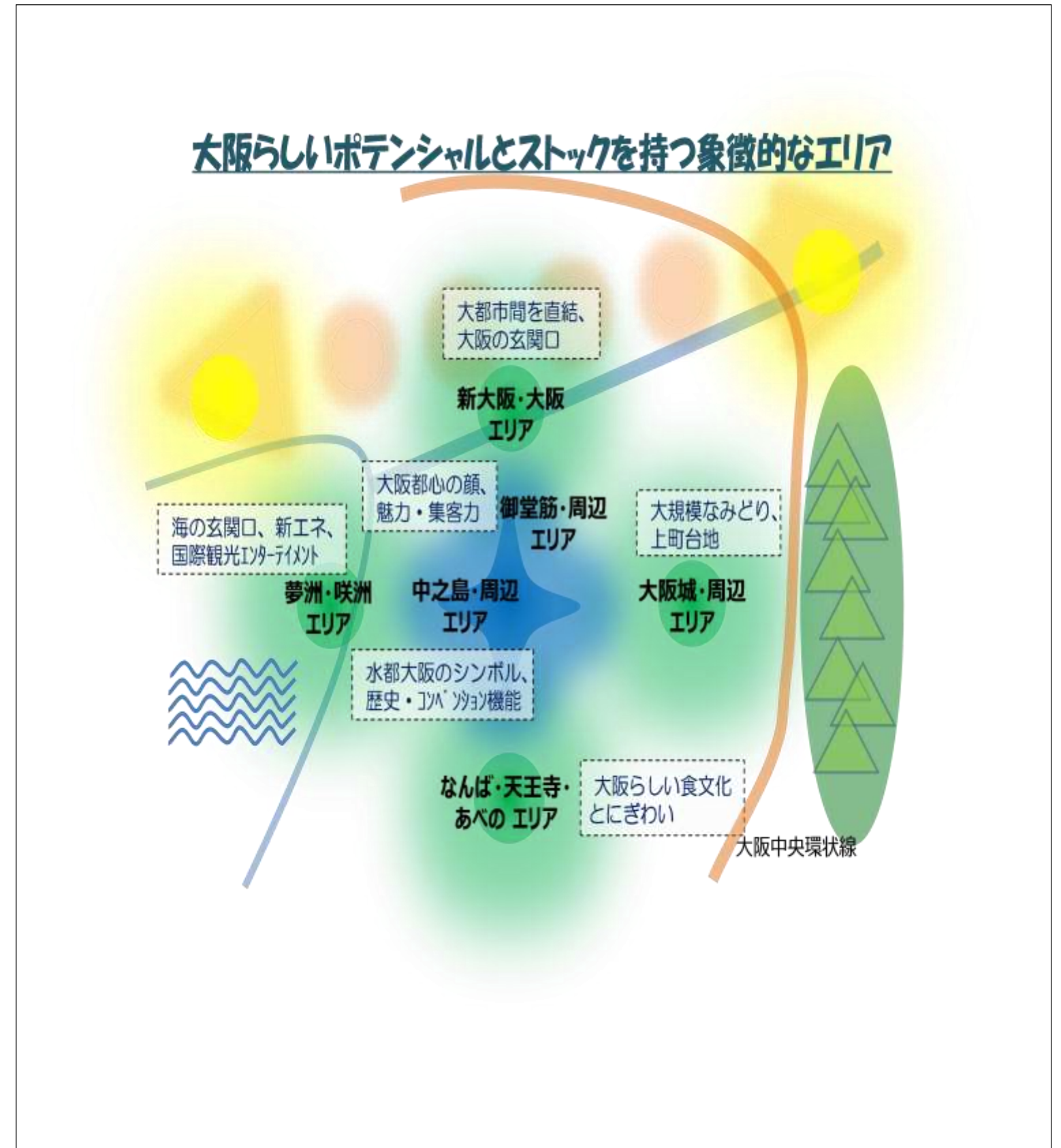
- ・民間開発を単発に終わらせず、地域ポテンシャルを最大限に活用

○ みどりの軸を活かした都市構造へ

- ・都心部を中心に東西南北方向の都市軸を設定
- ・みどりでつなぐ軸線として府域へ拡大

■ 各エリアのポテンシャル

新大阪・大阪エリア	リニア、山陽・北陸新幹線など大都市間を直結 我が国有数の業務・商業機能の集積。大阪の玄関口。
なんば・天王寺・あべのエリア	関空に直結する南の玄関口。動物園、ショッピングセンター、通天閣など、新たな動き。食文化、エンターテインメントの可能性。
大阪城・周辺エリア	大阪城の歴史文化。大阪城公園のみどり豊かな環境。
夢洲・咲洲エリア	海の玄関口。港湾やコンベンションと新たな開発の可能性。
御堂筋・周辺エリア	南北をつなぐシンボルロード「御堂筋」。四ツ橋筋～御堂筋～堺筋における業務・商業機能の集積。都心居住の可能性。
中之島・周辺エリア	水都大阪のシンボルゾーン、国際会議場、文化施設、ホテル群、オフィス、土佐堀川など多様な機能集積。



5. 各エリアでの取り組み

■ エリアのポテンシャル、動き、取組み

エリア	ポテンシャル	動き	取組み方向
新大阪・大阪エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○大都市間をつなぐ広域的な交通利便性（東京～名古屋～大阪にいたるメガ・リージョンの形成） ○新大阪周辺の専門学校等の集積、大阪の玄関口としての機能 ○淀川の自然、花火大会、柴島浄水場 ○百貨店等商業施設、多様なオフィス、ホテル等の集積 ○国際戦略総合特区 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新大阪阪急ビル ○うめきた開発（先行開発区域（2013年春まち開き）、2期区域（「みどり」化等）） ○阪急百貨店建替（2012年秋竣工予定） ○大阪神ビル・新阪急ビル建替構想 ○大阪中央郵便局建替 ○柴島浄水場の利活用 ○淀川左岸線 <p style="text-align: right;">など</p>	<p><短・中期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶うめきたと周辺のみどり化 ・地区運営組織によるにぎわい創出 ・大阪駅空中カフェの実現 ・駅南側から御堂筋へのみどりの形成 <p><中・長期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶柴島浄水場用地の活用 ・水道統合協議を踏まえた用地活用の構想 ・淀川花火、夜景を活かした集客魅力向上 ▶新大阪・大阪の一体化 ・淡路～新大阪～大阪に至る連絡鉄道 ▶リニア中央新幹線の早期開業 ・強い大都市圏形成に欠かせないリニア中央新幹線の東京・名古屋・大阪、同時早期開業
なんば・天王寺・あべのエリア	<ul style="list-style-type: none"> ○地形が感じられる坂道、みどり、寺町等大阪らしい風景 ○都心のだ真ん中にある動物園 ○新世界のにぎわい、木津市場等食に関わる関連施設 ○電気街、ポップカルチャー関連店舗の集積 ○食・アミューズメント・ショッピング等が集積した、多様なにぎわいのミナミ <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○南海会館建替(2019年春竣工予定) ○近鉄阿部野駅ビル旧館建替(2014年春竣工予定) ○南海なんば第1ビル(府立大/南海本社)(2013春竣工予定) ○天王寺動物園および天王寺公園の魅力向上 ○新世界100周年 <p style="text-align: right;">など</p>	<p><短期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶日本一の近鉄ビル・あべのハルカス ・周辺施設と一体となったにぎわいの創出 ▶世界一の都市型動物園をめざす天王寺動物園 ・生態的展示、緑陰都市を先導する魅力ある動植物公園 <p><短・中期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶難波駅前のみどり化 ・南海会館の建替えと併せた難波駅前のみどり化 ▶なんば～あべの一体化 ・緑陰の道を通るLRTでまちをつなぐ ・動植物公園を核として、エリア全体の魅力を高めるエリアマネジメント
大阪城・周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪城の歴史文化 ○大阪城公園のみどり豊かな環境 ○中之島・大川・大阪城の濠等の水辺空間 ○大規模ホール、音楽ホール、美術館、博物館、庭園、通り抜け等の文化施設 ○国、府、警察、病院等中枢機能の官公庁の集積 ○広大な旧砲兵工廠跡地 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○成人病センター建替え ○天満橋周辺の整備 ○大阪ミュージアム構想 ○市公館の利活用 ○旧第四師団司令部（旧大阪市立博物館）の活用 ○豊臣石垣の公開/売店等の建替え ○大阪府庁舎周辺整備/ごみ焼却工場の廃止 <p style="text-align: right;">など</p>	<p><短期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶大阪城公園と周辺のにぎわい創出 ・周辺の回遊性の向上 <p><短・中期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶世界的観光拠点としての魅力向上 ・梅・桜街道と水の回廊のネットワークづくり ▶森之宮周辺の活性化 ・成人病センター跡地活用の構想づくり具体化 ・大阪城公園との一体化
夢洲・咲洲エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○国際コンテナ戦略港湾 ○国際戦略総合特区 ○国際会議・見本市等のコンベンション機能 ○複数の国際級ホテル ○大規模開発用地 ○大規模テーマパーク ○天保山ハーバービレッジ（水族館、大観覧車等） ○天保山岸壁（大型クルーズ客船入港） <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○エンターテイメント都市構想 ○スマートコミュニティ関連技術実証・事業化（咲洲） ○再生可能エネルギー等、多様なエネルギーを利用した電カインフラシステムの構築（夢洲・咲洲） ○コンベンション(MICE)機能エンターテイメント機能等の導入の検討 ○国際コンテナ戦略港湾の推進 <p style="text-align: right;">など</p>	<p><短期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶物流機能の強化（国際コンテナ戦略港湾の推進） ・集荷機能の強化 ・産業の立地促進による創荷 ・民の視点による港湾経営主体の確立 <p><短・中期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶環境・新エネ産業の誘致 ・スマートコミュニティ実証実験 ・特区を活かした企業誘致 ・防災体制の構築 ▶国際観光エンターテイメント ・フェリー・クルーズ船の拠点化 ・コンベンション等による集客 <p><長期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶鉄道アクセスの強化 ・JR 桜島線の延伸
御堂筋・周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○堺筋～御堂筋～四ツ橋筋のオフィス、ブランドショップ等の集積 ○大阪のシンボル・ストリートとしての風格、美しいイチョウ並木 ○御堂筋ルミネーション、kappo 等季節を感じるイベント ○三休橋筋の旧大中証券ビル等の近代建築の集積と無電柱化（電線類の地中化）した綺麗な街並み ○道修町、神社、仏閣等、大阪の歴史と伝統の空気感漂う街並み ○船場、道頓堀等の地域活性化の市民活動 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○御堂筋デザインストリート、新たな景観の創出 ○民間開発（金融関連建物の建て替え等） ○企業連携による賑わいの創出 ○御堂筋起終点でのシンボル空間づくり <p style="text-align: right;">など</p>	<p><短期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶御堂筋側道の歩行者空間化 ・緩速車線の利活用 など ▶近代建築物の保全・活用 ・用途転換、無電柱化 など <p><短・中期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶堺筋～御堂筋～四ツ橋筋の魅力・景観の向上 ・景観のルール作り（高さ規制、ファサードの美化等） ・居住機能の充実（滞在型施設の誘導など） ・御堂筋沿道のクオリティの高いにぎわい空間の形成 <p><長期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶全面みどり化 ・環状道路整備にあわせた自動車交通の排除 ・まちの魅力をつなぐ LRT
中之島・周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○中之島をはじめとした水の回廊 ○中之島公園を中心に展開している光のルネサンス ○国際会議場や国際級ホテル等のコンベンション機能の集積 ○図書館、北浜レトロビル、川口教会等風格ある歴史的建築物 ○コンサートホール、東洋陶磁美術館等、文化施設の集積 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水都大阪推進(水と光のまちづくり構想) ・景観形成 ・官民連携によるイベント ・ライトアップ ・舟運 等 ○フェスティバルホールの建替え ○中之島3丁目共同開発 ○国際級ホテル再開発 <p style="text-align: right;">など</p>	<p><短・中期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶水都大阪のシンボルアイランド化 ・ライトアップの時間延長 ・中之島緑道の回遊性向上 ・水・みどり・光を活かす歩行者ネットワークづくり ▶中之島西部地域の魅力向上 ・中之島4・5丁目のにぎわいの創出に向けたまちづくりについて官民連携して推進 ・国際会議場の活用 ・歴史的建築物の再生、活用 <p><長期></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶鉄道アクセスの強化 ・京阪中之島線の延伸

